

大人の遠足合宿・夏編 “伊豆山稜線歩道”

西 正子

●2019年7月13日(土)～14日(日)

●メンバー

島崎 横堀 岩田 白井 西A 西M

久しぶりに合宿を計画した。とは言え、平均年齢60代半ば「おとな会の合宿」だ。昔と同じようにはやられてられない。

- ① 基本朝立ち できれば電車利用
- ② 2～3日の縦走コース
- ③ 自炊を楽しむが、荷物は軽く
- ④ 万が一のエスケープルートが豊富

こんなゆるい条件を満たす山を探す。そして今回は、季節も考え合わせ「伊豆山稜線歩道」を目標に決めた。

伊豆半島の中央部、天城峠から戸田峠まで、標高600～1000m、南北33キロにわたる山稜歩き。途中1泊。こんなちょっと変わった合宿に6名が参加することになった。

13日・「森林の道」 曇り、夕方から小雨

天城峠バス停(9:40)→天城峠(10:20)→猫越岳(15:00)→仁科峠(16:10)→西伊豆高原牧場の家(16:45)

東京発6:33の新幹線を三島で乗り換える。伊豆箱根鉄道終点の修善寺まで行き、バスに乗車。天城峠停留所で下車をした。朝いちばんで東京を出ると10時前には登山をはじめられる伊豆の山は、意外に近く感じる。

バス停で準備を整え、道路左手の急斜面に入る。途中、「伊豆の踊子」の舞台となった旧天城トンネルなどを見物しながら40分ほど登ると天城峠(820m)に着いた。

ここから左は、万三郎・万二郎へつづく天城山縦走コース。私たちは右へと道を取る。

「稜線歩道」ではあるが、じっさいの道は稜線上ではなく、山腹をトラバースするようにつけら

れていた。地形を忠実になぞるので、かなりのくねくね道だが、道標は完備され、手入れのよさを感じる。それでも、梅雨真っ盛りの道は滑りやすい。斜面が切れ落ちた場所や濡れた木橋などは、ゆっくり慎重に通過した。

古峠→二本杉峠→滑沢山へと順調に進む。このあたり、ブナやヒメシャラの自然林に檜や杉などが混じる樹相がめずらしい。古くから人とのかわりが深い山域なのだろう。

三蓋山(みかさやま・1013m)に、13:40着。

ブナの原生林が見事な山だ。株立ちというのだろうか、根元のすぐ上から太い幹が何本も、うねうねと四方八方に伸び、強い躍動感を感じる。おおよそ東北地方のすらりと伸びる、端正な樹林とは対照的だ。

午後2時をすぎると小雨が降ってきた。

次のピーク、縦走路最高地の猫越岳(ねっこだけ・1035m)にはこの日唯一の展望台があるが、あいにくの天気、南アルプスどころか、行く手さえガスの中だった。しかし近くにある火口池を見ると無数のオタマジャクシが元気よく泳ぎ回っており、思わぬ拾い物をした気分になった。

猫越岳から、徐々に標高を下げていく。やがて周囲が大きく開け、広々とした牧場草原が見えてきた。たくさんの牛がミニチュア模型のようだった。

牧場の中心「仁科峠(895m)」からは、稜線はずれ、道路を下っていく。本日の宿「西伊豆高原牧場の家」に35分ほどで着いた。

牧場の家は、ドライブインの脇に建つ大小6軒の家屋群、早く言えば貸別荘だった。キッチン、冷蔵庫、バス、トイレ、布団、テレビなど完備している。ふつうの家に泊まるようなものだから、気楽と言えば気楽である。各人濡れた服を着替え、ビールを冷やし、夕食の準備の間、順に入浴した。

外を見ると、他の家は海で遊んできた家族連れ

などが多い。一足早く夕食を終え、バルコニーで花火上げを楽しんでいた。

14日・「草原の道」 雨のち曇り

西伊豆高原牧場の家(7:20)→風早峠(8:00)→土肥峠(10:00)→船原峠(11:40)→大曲茶屋(12:40)

明け方の激しい雨が小降りになったので、予定どおり出発する。今日歩く道は西伊豆スカイラインの道路沿いにあり、いざとなれば下山も容易だ。

朝いちばん、道路を仁科峠まで登り返し、縦走2日目が始まった。この日も「山」と「峠」の繰り返しだったが、昨日と違うのは、広い草原の真ん中に道がのび、空が大きく開けていることだ。天気だったらどんなによかっただろう。正面の富士山、左手の駿河湾、美しい景色は、みな雲に隠されている。「富士山がきれいなはず」「海が光っているはず」、想像力でカバーするよりなかった。

反対に、よかった点は登山道に近接する道路に車が少なかったこと。人里近いコースだが、このほか静寂で、奥深さを感じた。

風早峠(770m)では、立ち木が皆「右向け右」をしていた。強い西風にたたられ風下へ枝葉を伸ばす姿は3000m級の山々とくらべても遜色がない。きびしい伊豆山の一面があった。

風早峠→宇久須峠→魂ノ山(こんのやま・933m)へと小さな登り下りが続く。視界が悪いこともあり、標高差のわりに消耗が大きい。とにかく、峠なり山頂なり、ポイント地点に着くたびに休憩を取り、少しずつ前進した。これならば、たとえ大きな標高差であっても、「登り」ならずと登り、「下り」ならずと下りのほうが、負担が少ないように思った。

魂ノ山からは、道がぐんぐん下るようになり、昨日同様、まわりが濃い森におおわれてきた。

10時を過ぎると、鳥のさえずりが始まり、しだいに雨も止んできた。

土肥峠、南無妙峠、吉奈峠を淡々とこなし、昼前には船原峠(570m)に着いた。目標は、戸田峠だが、期待の展望がないため、ここで縦走を終了

とした。峠と交差する国道136号を下り、大曲茶屋停留所からバスで修善寺に戻った。

「大人の夏合宿」は、天候には恵まれなかった分、空気は冷涼で、スムーズな2日間を過ごすことができた。

日頃のトレーニングで体力維持を図ることはもちろん大切だ。しかし、まぎれもない「シニア世代」の目白では、省エネ登山を考え、若い世代とはまた違ったやり方を編み出すことが大切だと思う。山行中、20代のトレラングループとすれ違ったし、ネットでは冬季にツエルトで歩く姿が紹介されていた。山の楽しみ方はさまざまだ。

最後に、この実験的登山に参加されたみなさん、ありがとうございました。「冬編」も用意しますので、よろしくお願ひします。



旧天城トンネル



火口池